会計業務従事者の倫理学習

吉 盛一郎*

The Ethical Learning for Accountants

Seiichiro YOSHI

Abstract :Recent business wrong-doings have been caused because some persons don't observe the law and business ethics. We have the subject how we teach these problems to accountants.
We teach students many things such as Business Administration, Accounting and Management Information System at Department of Business Administration.
We have ten ethical problems at a trial system. 29 students in the fifth year of our school answer the problems and questionnaires at the net system.
We report you a trial learning system on business ethics and questionnaires' analyses.

Key words : business ethics, cai system, law, audit, accounting, management information system

1. はじめに

昨今の企業不祥事事件は，法律や企業倫理（会計倫理）を遵守しないことから起こっている。こうした問題を会計業務従事者が如何に研修していくかが課題となっている[1)]。

社会人になって，法令に違反する事件，倫理的な問題に出くわしたときにどういう行為に出るかは，日頃の研修が活きてくると思う。

大企業では定期的に講習会を行うようにはなってきたが，中小企業では企業倫理に関して社員教育で日常的に行っていない。

昨今の企業倫理に違反する事例について，何が非倫理的な行為であるかを各企業で検証しているか疑問である。

時間をとって日常的に研修を行うのが難しいのであるなら，いつでもできる事例を用いたシステムを構築しようというのが本研究の目的である。

筆者が描く企業倫理研修システムは，各設問に答えてもらって，自己採点して，そのあとに，ネット上で教官（または企業における倫理担当者）は何が非倫理的な行為であるかを問い，学生（社員）同士で議論してもらう。教官（倫理担当者）が解説を入れて学生（社員）は倫理的な問題について学習する。今回は試作品を使って学生に学習してもらった。

筆者は，5年生の1クラス（29名）にネット上で一斉に設問へ解答してもらい，その後アンケートを採った。

本報告では，ネット上での企業倫理（会計倫理）学習システム（試作品）と調査したアンケートの結果を報告する。

2. 事例問題のシステム

会計学教育において，粉飾決算はいけないことであるとまず，学生に教えなければならない。コンピュータ会計では振替伝票をみて数字を打ち込むと，自動集計されて瞬時に財務諸表が作成される。数字を入れる人が売上を過大計上すれば粉飾決算がいとも簡単にできる。

また，経営者や 職業会計人が倫理観を欠如してくると，投資家や銀行などはどの企業の財政状態や経営成績にも疑いの目を向けざるを得ない。

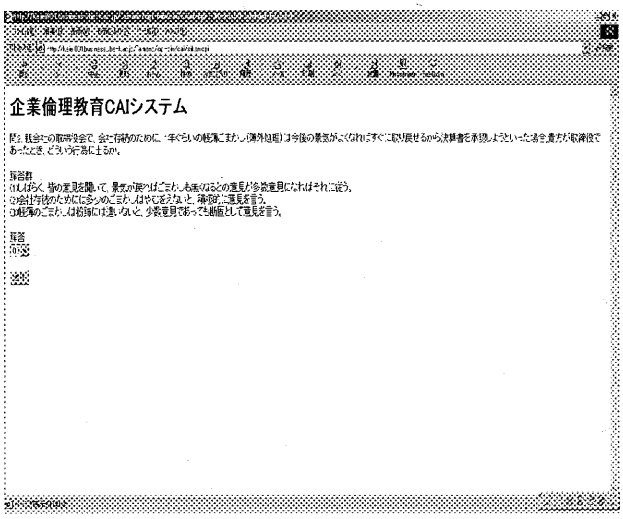

図1 設問

（2002年12月27日受理）
*宇部工業高等専門学校 経営情報学科

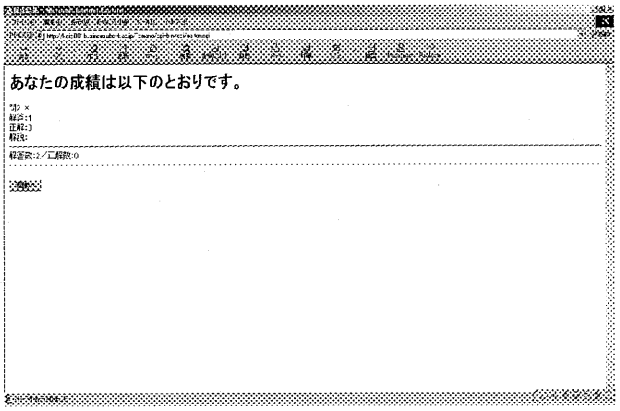

図 2 解答

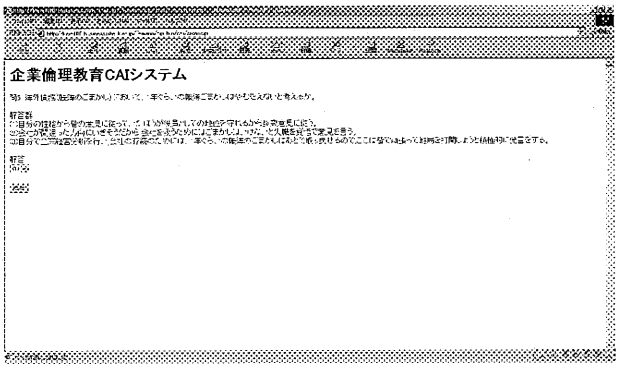

図3 設問

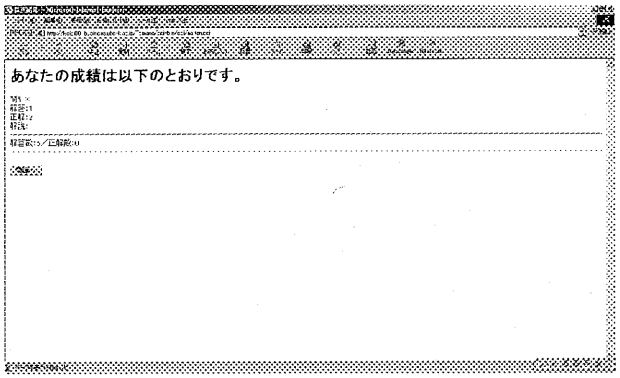

図4 解答

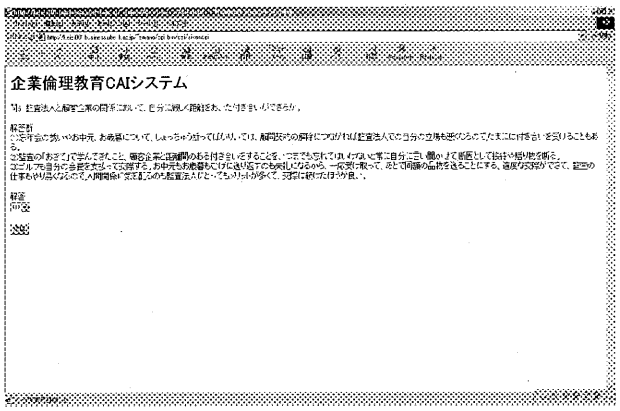

図5 設問

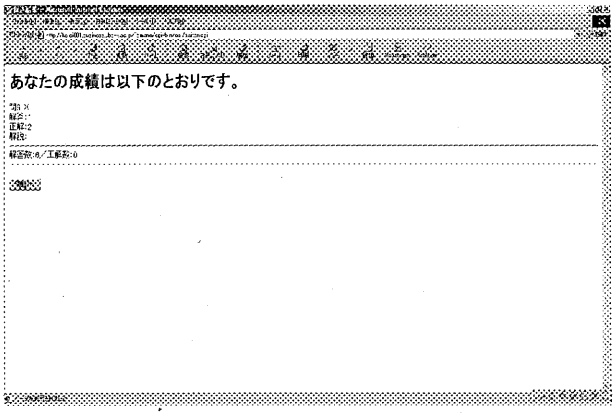

図 6 解答

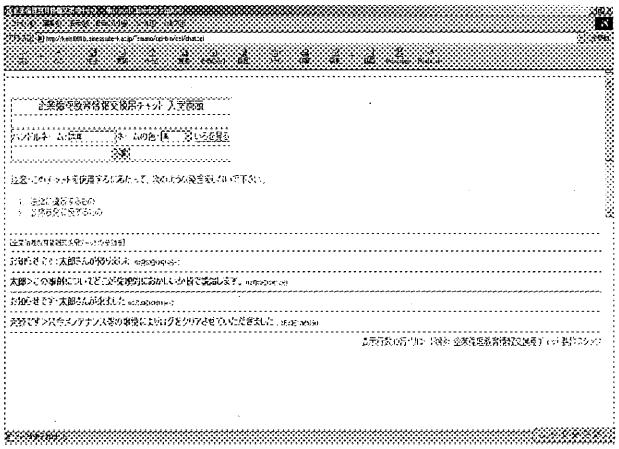

図7 チャットシステム (1)

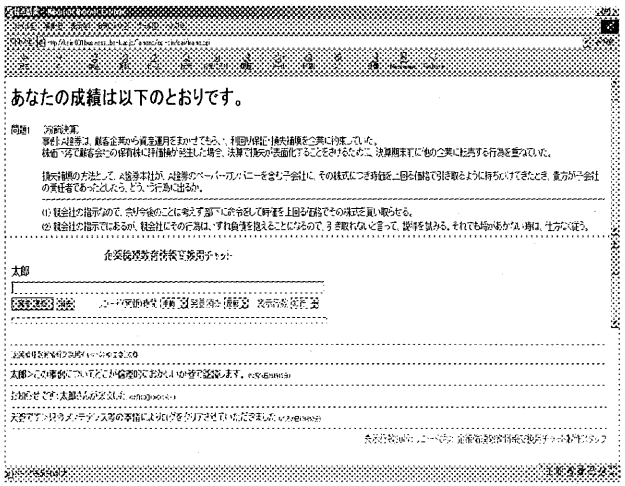

図8 チャットシステム (2)

企業人, 会計士や税理士にも自ら研修する制度や自己学習できるシステムが求められる。

早速, 会計に関する事例[2)3)]学習するシステムを紹介してみる。

試作ということで問題を 10 問用意した。会計学の中から, 学生には授業時間ではあまり取り上げていない時事問題を選んである。

システムでは問題に解答群から適当な答えを選んで送信ボタンを押すと，画面が変わり，解答が表示される（図1から図6まで参照）。

設問の10問に答えたあとに，各事例について教官が質問して，非倫理的な行為や理解不足なところをお互いに学習する（図7，8参照）。チャットシステムについては，今回は3人と5名の二つのグループで行った。ハンドルネーム（ニックネーム，匿名）で行い，自由に議論してもらった。皆一斉にチャットをはじめるので，議論がかみ合わないことがあった。順番を決めたほうがいいのか，問題が残った。

3.アンケートの結果

設問に答えて自己学習をしたあとにアンケート調査を行った（図9）。

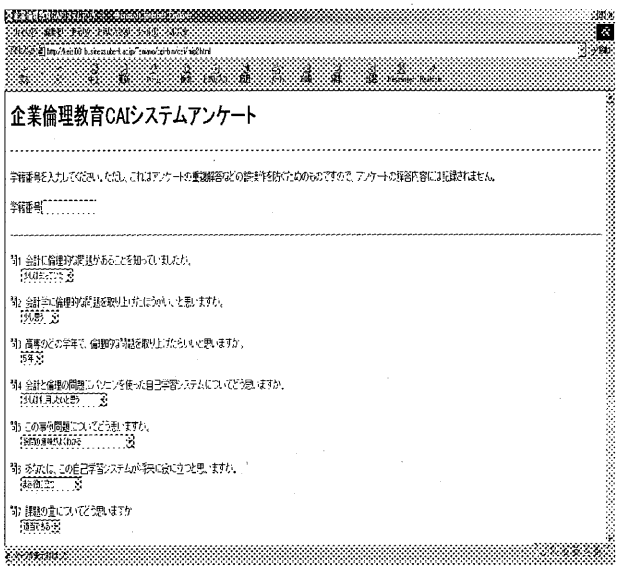

図9 アンケート

Q1. 会計に倫理的な問題があることを知っていたか[3]。

よく知っていた 0 %　知らなかった 24%

少しは知っていた 76%

倫理的な問題について知らなかった学生も4人に1人の割合でいた。この問題を授業時間で取り上げていく必要がある。現実社会で起きている粉飾事件がなぜ起きるのか考えさせる授業が望ましいのではないかと思う。大学や商業高校では会計学の授業の中で余り取り上げてこなかった。

Q2. 会計学に倫理的な問題を取り上げたほうがいいと思うか。

少し思う 41%　大いに思う 56%　思わない 3%

粉飾事例について学習しなければならないことについては，ほとんどの学生は高い関心を持っている。

Q3. 高専のどの学年で，倫理的な問題を取り上げたらいいと思うか。

3年 21%　4年 55%　5年 24%

下級生のうちは会計学の基準や仕訳問題などの基本を扱って，上級生で倫理的な問題を取り上げた方が，学生の会計学について勉強する際に混乱(勉強意欲の減退)はないと思われる。

Q4. 会計と倫理の問題についてパソコンを使った自己学習システムを用いることについてどう思うか。

積極的に利用したい 28%

少しは利用したいと思う　69%

まったく利用したいとは思わない 3%

普段の授業では基本中心になるので，倫理的な問題について学習する時間を取れないのが現状である。

学生にとっても教官が授業で取り上げないときは，システムがあれば自己学習できるので，ネット学習には好意的である。

Q5. 今回の事例問題についてどう思うか。

設問がむずかしい 10%　設問の意味が少しわかりにくいところがある 52%　設問の意味がよくわかる 38%

事例問題の内容が，会計士とクライアントの交際の問題や証券会社の特殊な事情を取り上げたので学生の興味がもてない内容であった。も少し興味の持てる内容に工夫する必要がある。

Q6. 会計と倫理の問題について，小話システムを考えているが，物語で考える問題についてどう思うか。

少しは倫理の問題に入りやすいと思う 76%

大いに理解しやすいと思う 21%

理解しにくいと思う 3%

倫理的な問題を学習することは容易ではないので，取り上げる教材の内容が大変大事になってくる。学生が興味を持って倫理的な問題に入れる工夫が求められる。

倫理的な問題は，各自の基準がちがうので，研修しにくいものである。物語の中で登場人物のどの点に倫理的な問題行為があるかを，チャットシステム上で議論しながら研修していく。

Q7. 設問の問題数についてはどう思うか。

適当である 86%　やや少ない 7%

少ない 7%

問題数を10問としたので，確かに少ない。今後はいくつかのパターンを用意することにする。また，事例を上げて各自で倫理的な問題についてチャットする。

本来は少人数の講義（ゼミナール）において，議論しながら倫理の問題を考えていくことが望ましいが，意見を積極的に言える人とそうでない人がいる。チャットシステムを用い

れば自由に書き込めて意見が言いやすいものである。実際、今回チャットしてもらったところ，全員がゲームをするように意見を言っていた。

4. 終わりに

アンケートの最後の質問で，自由に書いてもらったところ，問題は取り掛かりやすい内容，ニュースで話題となった興味のありそうな問題，学生の視点からみた問題を望んでいる。また，倫理の問題がよくわからない，選択肢が甘い，正答に対する解説と，正答に対する問題点も示したほうがよいという感想もあった。

今後は問題の内容を，学生に向いたものにして，何が非倫理的な行為かをチャットシステム上で議論して，望ましい行動基準をお互いにもてるようにしたい。

このシステムついて，日本経営倫理学会で発表した折，社員に研修するとき，各社員の倫理観がわかったときに，それによって昇格人事や他の事柄に使われる恐れがないかという質問を受けたことがある[4]。こうした問題も企業においてありうることではある。

しかし，日頃から企業人の問題行為を事前に修正することをしないから，企業倫理違反行為が頻発している。企業人としての倫理行動基準を明確に確立しておけば，法令や企業倫理に違反する行為は減少すると思う。

それからチャットシステムを用いるときにハンドルネーム（ニックネーム，匿名）か実名で行うかという問題もある。

今回はハンドルネームでチャットしてみたが，意見が言いやすいので，多くの議論ができた。次回は実名を用いたときに意見が言いやすいのか検証してみることにする。

また，今回の試作品の調査結果を参考にして，実際に起こった事件を取り上げ，チャットシステムを使って企業人が議論できるシステムを構築したい。

謝辞

本研究でご協力いただいた，経営情報学科の内田保雄先生と学生の天野聡君に感謝いたします。

なお，本研究の一部は，平成14年度の科学研究補助金基盤研究（C）の助成を受けています。

参考文献

1) 吉盛一郎：会計と倫理へのデジタル・システムからのアプローチ，平成14年度高等専門学校教育研究集会講演論文集 pp.159-160（2002）
吉盛一郎：CAIシステム導入による会計倫理教育，九州経済学会年報，第39集，pp.197-201（2001）
吉盛一郎：企業倫理とCAIシステム，第43回オフィスオートメーション学会全国大会予稿集 pp.117-119（2001）

2) 森岡孝二：粉飾決算，岩波書店（2000）

3) 瀧田輝己他4名訳：会計士の倫理と推論，税務経理協会（1999）Lawrence A.Ponemon and David R. L. Gabhart, Ethical Reasoning in Accounting and Auditing, CGA-Canada Research Foundation (1993)

4) 吉盛一郎：デジタル・ケーススタディを実現する会計倫理教育システムの開発研究，日本経営倫理学会，第10回研究発表大会予稿集 pp.65-69（2002）